

2026 年 1 月 16 日

南砺市長
田中 幹夫 様

呉西地区交通まちづくり市民会議
会長 須摩 孝一

城端線・氷見線再構築に関する受講者の意見報告

呉西地区交通まちづくり市民会議は 2025 年度、城端線・氷見線の通勤・通学利用増加策を考えるアイデアソンと、城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画の進捗について学ぶ公開講座を開催しました。オンラインを含め計 150 人以上が受講し、利用者や市民の視点から多くの貴重な意見や提案が出されました。

城端線・氷見線は現在、再構築計画が進められ、新型車両や IC カード導入などで大幅な利便性向上が図られようとしています。しかしながら、主な利用者である高校生は少子化で急速な減少が予想されており、さらなる利用増化策がなければ、将来にわたって持続可能な公共交通機関とすることは困難です。

アイデアソン、公開講座では、「これまでマイカーが中心だった現役世代の通勤利用を増やすことが重要」との指摘がありました。具体的には、パーク＆ライド駐車場の整備や、所要時間短縮のための快速列車運行などです。

このほかにも、傾聴に値すると思われる意見やアイデアが多数出されましたので、主なものを下記にまとめました。再構築計画実施に当たり、参考としていただければ、幸いです。

記

1. 鉄道事業者に関する意見

- (1) 朝夕の通勤・通学時間帯の増便。できれば 15～20 分間隔に。
- (2) 高岡駅で各方面へのスムーズな乗り継ぎができるダイヤ。
(通勤利用には、高岡駅で午後 9 時 30 分ごろまで、スムーズな乗り継ぎができることが必要)

- (3) パターンダイヤ化や高岡-新高岡間のアクセス向上。
- (4) 通勤時間帯の快速列車運行（南砺市内-富山間など遠距離通勤の所要時間短縮）。
- (5) 駅施設の整備（待合室の冷暖房設備、トイレ、バリアフリー化など）。
- (6) 車両や駅に Wi-Fi 環境や電源設備を。
- (7) 車両の揺れが大きい区間の線路改修。
- (8) 雨や雪で運休しない強じんな運行体制。
- (9) 県東部に開校される可能性が高い高校大規模校へ通学可能なダイヤ。

2. その他、行政や関係機関等に関する意見

- (1) パーク＆ライド駐車場の拡充整備。設置可能な場所に新駅も。
- (2) 市営バス等のフィーダー交通充実。市域を超えた路線も開設。
- (3) 地域活性化へ駅を中心としたまちづくり。
- (4) 住民を利用に誘導するモビリティ・マネジメントの実施

3. 市民の意識、啓発等に関する意見

- (1) 通勤は「駅までマイカー」を推進。
- (2) 通学の送迎も最寄りの駅までに。
- (3) 沿線市民自らが、利用促進の運動を展開。

以上

※アイデアソン、公開講座の詳細は、呉西地区交通まちづくり市民会議ホームページをご覧ください。

- ・ 第一回講座アイデアソン「どうやって増やす 城端・氷見線通勤利用」

(9月21日)

→ <https://koutsukaigi.tonamino.info/20250921.html>

- ・ 第二回講座「どこまで進んだのか 城端・氷見線再構築計画」

(11月30日)

→ <https://koutsukaigi.tonamino.info/20251130.html>

2026 年1月 16 日

南砺市長
田 中 幹 夫 様

呉西地区交通まちづくり市民会議
副会長 古 瀬 正 嗣

城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画の
南砺市に関連する要望について

新しく生まれ変わる城端線・氷見線を持続可能な地域公共交通にするには、朝夕の通勤・通学、日中の移動や観光客の利用など、利便性を向上させ、これまでより以上に利用を促進させることが重要です。

言うまでもなく南砺市は、城端線沿線市のなかでも末端に位置し、かつ散居村に住む地域柄、マイカーが欠かせない状況にあります。

このような中、現状城端線の主な利用者である高校生は、少子化により減少が予想され、将来にわたって持続可能な公共交通とするには、これまでマイカー通勤が当たり前であった、現役世代の通勤利用を増やすことが重要と考えます。

それには、マイカー通勤とほぼ変わらない利便性が求められ、中でも通勤時間帯の快速列車は所要時間を短縮でき、通勤利用を増やす重要な施策になると考えます。

つきましては、これらに関する施策をはじめ、利用を促す啓発など、住民・企業・行政が連携して取り組むようお願い申し上げます。

記

- 1 朝夕の通勤・通学の時間帯の増便と快速列車の運行
(実現に向けて、早期に運行のシミュレーションを行い、必要であれば列車すり替え場所の選定やそれに伴う整備)
- 2 高岡駅で、富山方面・氷見方面など各方面へのスムーズな乗り継ぎ
- 3 パーク&ライド駐車場の拡充整備や、なんバス・ライドシェア等の駅へのアクセスの改善
- 4 利用を促す啓発等について、住民・企業・行政が連携して取り組む

以上

2026 年 1 月 21 日

砺波市長
夏野 修 様

呉西地区交通まちづくり市民会議
会長 須摩 孝一

城端線・氷見線再構築に関する受講者の意見報告

呉西地区交通まちづくり市民会議は 2025 年度、城端線・氷見線の通勤・通学利用増加策を考えるアイデアソンと、城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画の進捗について学ぶ公開講座を開催しました。オンラインを含め計 150 人以上が受講し、利用者や市民の視点から多くの貴重な意見や提案が出されました。

城端線・氷見線は現在、再構築計画が進められ、新型車両や IC カード導入などで大幅な利便性向上が図られようとしています。しかしながら、主な利用者である高校生は少子化で急速な減少が予想されており、さらなる利用増化策がなければ、将来にわたって持続可能な公共交通機関とすることは困難です。

アイデアソン、公開講座では、「これまでマイカーが中心だった現役世代の通勤利用を増やすことが重要」との指摘がありました。具体的には、パーク＆ライド駐車場の整備や、所要時間短縮のための快速列車運行などです。

このほかにも、傾聴に値すると思われる意見やアイデアが多数出されましたので、主なものを下記にまとめました。再構築計画実施に当たり、参考としていただければ、幸いです。

記

1. 鉄道事業者に関する意見

- (1) 朝夕の通勤・通学時間帯の増便。できれば 15～20 分間隔に。
- (2) 高岡駅で各方面へのスムーズな乗り継ぎができるダイヤ。
(通勤利用には、高岡駅で午後 9 時 30 分ごろまで、スムーズな乗り継ぎができることが必要)
- (3) パターンダイヤ化や高岡-新高岡間のアクセス向上。
- (4) 通勤時間帯の快速列車運行（南砺市内-富山間など遠距離通勤の所要時間短縮）。

- (5) 駅施設の整備（待合室の冷暖房設備、トイレ、バリアフリー化など）。
- (6) 車両や駅に Wi-Fi 環境や電源設備を。
- (7) 車両の揺れが大きい区間の線路改修。
- (8) 雨や雪で運休しない強じんな運行体制。
- (9) 県東部に開校される可能性が高い高校大規模校へ通学可能なダイヤ。

2. その他、行政や関係機関等に関する意見

- (1) パーク＆ライド駐車場の拡充整備。設置可能な場所に新駅も。
- (2) 市営バス等のフィーダー交通充実。市域を超えた路線も開設。
- (3) 地域活性化へ駅を中心としたまちづくり。
- (4) 住民を利用に誘導するモビリティ・マネジメントの実施

3. 市民の意識、啓発等に関する意見

- (1) 通勤は「駅までマイカー」を推進。
- (2) 通学の送迎も最寄りの駅までに。
- (3) 沿線市民自らが、利用促進の運動を展開。

以上

※アイデアソン、公開講座の詳細は、呉西地区交通まちづくり市民会議ホームページをご覧ください。

- ・ 第一回講座アイデアソン「どうやって増やす 城端・氷見線通勤利用」
(9月21日)

→ <https://koutsukaigi.tonamino.info/20250921.html>

- ・ 第二回講座「どこまで進んだのか 城端・氷見線再構築計画」
(11月30日)

→ <https://koutsukaigi.tonamino.info/20251130.html>